

生成AI利活用セミナー in 北海道

- 新たな学びの可能性を創る -



令和7年 1月17日 (金)

13:30~17:00

サッポロファクトリー 1条館 1階

「札幌 ユビキタス協創広場 U-cala」

(内田洋行 北海道支店 札幌市中央区北1条東4丁目1-1)

YouTube Liveによるハイブリッド開催

生成AIをより身近なものとして捉え、安心安全に利活用してもらうため、
生成AIに関する先進的な取組をしているの方々にご登壇いただくセミナーを開催します。

内容

第一部：事業者講演

「教育領域におけるAWSおよび生成AIの活用」

アマゾン ウェブ サービス ジャパン合同会社

「生成AIによるビジネス、学び、くらしの変革」

AWL株式会社

「初等中等教育における生成AI活用事例」

株式会社内田洋行 教育総合研究所

第二部：教育現場の生の声

「本校における生成AIの活用について」

北海道帯広柏葉高等学校

「学校教育における生成AIの利活用と必要性について」

木古内町教育委員会

「高校生と共に考える「生成AIとの付き合い方」」

株式会社クレスコ、市立札幌旭丘高等学校

第三部：交流会（会場参加者のみ）

申込

以下のURLまたは二次元コードからお申込みください。

<https://www.soumu.go.jp/soutsu/hokkaido/2024/1129.html>

締切 令和6年12月25日(水)まで ※定員になり次第、受付を終了いたします。



主催：北海道総合通信局、北海道テレコム懇談会

協力：株式会社内田洋行

後援：北海道教育委員会

問合せ先：北海道総合通信局 電気通信事業課

TEL 011-709-2311 (4706)

MAIL higo-seminar@soumu.go.jp

登壇者紹介

アマゾン ウェブ サービス ジャパン合同会社 執行役員 技術統括本部長

瀧澤 与一(たきざわ よいち)

国内大手システムインテグレーターで20年間、大規模なシステム設計・プロジェクトマネージメント、キャリアグレードネットワーク、セキュリティ、クラウドなどの技術開発を経験したのち、2014年にソリューションアーキテクトとしてAWSにジョイン。2023年より同 執行役員。中央省庁、自治体、教育機関、ヘルスケアを含む公共のお客様のクラウドによる変革をサポート。独立行政法人情報処理推進機構 (IPA) クラウドサービスのセキュリティ対策 (ISMAP) に係る管理基準WG 委員、レガシーシステムモダン化委員会 委員、一般社団法人 Generative AI Japan 有識者理事、など。著書：「Amazon Web Services企業導入ガイドブック」など。



AWL株式会社 CHRO 兼 上席執行役員部長

土田 美那(つちだ みな)



タイ、オーストラリア育ち。2001年に北海道大学卒業後、パナソニックに入社し、半導体事業および研究開発部門で人事マネージメントを担当。2013年よりシリコンバレーで新規事業開発と地域活動に携わる。2017年にAWL株式会社に入社し、人事および事業オペレーションを牽引、GLOBAWLカルチャーを構築。

株式会社内田洋行 教育総合研究所 研究開発部長

志儀 孝典(しぎ たかのり)



1999年、内田洋行入社。教育の情報化を推進するため、主にPC教室や校内インフラ等の企画営業を実施。2014年より教育総合研究所に異動。主に文部科学省、総務省、各地方公共団体より、各種の調査研究を受託し、教育情報化推進に関する課題抽出や対策立案等を担当。

北海道帯広柏葉高等学校 教諭

戸川 貴之(とがわ たかし)



私立帯広北高等学校に国語科教員として20年勤務し、3年前から帯広柏葉高等学校へ。リーディングDXスクール事業指定校校内担当者として、ICT機器や生成AIを活用した学びについて研究・実践している。校外では「GEG Tokachi」のリーダーや世界の日本語話者や全国の教育関係者とつながる活動をし研鑽を積んでいる。

北海道帯広柏葉高等学校 教諭

山崎 広平(やまざき こうへい)



教科は理科(生物)。部活動は硬式テニス部担当。リーディングDXスクール事業指定校校内担当として、誰もが「普段使い」できることをモットーに校務DX化を推進。管内の学校間の連携を目的とした「十勝ICT推進委員会」の運営にも事務局校として携わっている。

木古内町教育委員会 教育長

藤澤 義博(ふじさわ よしひろ)

神奈川県横須賀市生まれ。高校卒業後、米国へ留学。帰国後、某航空会社へ入社。入社後は成田空港勤務を皮切りに貨物や旅行企画販売・地方創生・広報・宣伝・マイレージ事業などを担当。2018年9月、公立はこだて未来大学大学院(後期博士課程)にて、プログラミング教育とICT教育の学習効果と学習方法の研究に専念するため、約25年間勤務した航空会社を退職し、起業。道内でのプログラミング教育の普及活動や道内に小中学生向けプログラミング・デジタルスクール及び社会人向けエンジニア養成スクールなどを開校。2022年10月より、現職。北海道小中学生プログラミングコンテスト 大会ファウンダー



株式会社クレスコ プロジェクトマネージャー

八巻 正行(やまき まさゆき)



株式会社クレスコ北海道開発センターでプロジェクトマネージャーを務める傍ら、高校生ICT Conference in 札幌、U-16プログラミングコンテスト札幌大会、Security College for Youthをはじめとした若手向けICT関連イベントを運営しており、青少年のICT活用支援、将来のIT技術者育成に取り組んでいる。

市立札幌旭丘高等学校 2年

山内 琉矢(やまうち りゅうや)



市立札幌旭丘高等学校 普通科2年次。メティア局所属。

「高校生ICT Conference 2024 in 札幌」の代表として東京でのサミットに参加。